

平成29年度第2回奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会議事概要

開催日時 平成29年8月8日（火）14:00～16:10

開催場所 奈良県文化会館 2階集会室 AB

出席者

（委員）安田委員長、今中委員、竹田委員、任委員、堀委員

（法人）車谷理事、杉山理事、清水部長、表野部長

その他関係課職員

（事務局）河合県知事公室審議官、藤井病院マネジメント課長、森本課長補佐

その他病院マネジメント課職員

議 題

- （1）平成28年度業務の実績に関する評価結果について
- （2）平成28年度財務諸表の承認にかかる意見について
- （3）その他

公開・非公開の別

公開（傍聴者1人、報道関係者 0人）

内容

[議事前]

①長期収支シミュレーションについての補足説明

- ・法人より「補足資料1」の説明

[竹田委員]

奈良医大への運営費交付金は19億6341万円とのことだが、医学部で赤字となる予算の作りが考えられない。病院を除く大学で授業料と運営費交付金で収支均衡させるのが大前提である。第1期中期目標期間の運営費交付金については決算書に、病院の施設整備における起債分の一部を大学の運営費交付金から引いているとの記述がある。第2期中期目標期間も同様か。

[法人]

従来、独法化以前は特別会計という形で収支差を補填していたが、独法化後は別のルールの下、独立採算で行う必要がある。従前の、ハードの償還を考慮しながら算定しているところもあるが、そもそも普通交付税や特別交付税のルールを横に置いて、収支差をベースに交付金のルールを第1期に定め、第2期も継続している状況である。

H28について、普通交付税のルールと現在の交付金の算定ルールとでは法人の負担に、10億円の差が存在する。従って交付税分が法人に流れきっていない現状がある。

[今中委員]

大学と病院の交付金の割合がわからないが、病院が利益を出して大学の赤字を埋めることとなっている。病院は全国的に利益が出せない傾向であるなか、病院が大学の穴埋めをする体制は不自然であり、あり得ない。大学の赤字は運営や経営がまずいと言うことではなくて根本的に交付金が少ないなど財政支援体制の影響が大きいと感じた。

[堀委員]

運営費交付金は病院にいくら割り当てあるか。病院の黒字とは運営費交付金を含んでいないのか、含んでいるものなのかどちらか。

[法人]

運営費交付金のうち 19 億のうち、2.3 億円が病院に交付されている。

[堀委員]

病院の施設整備の建設費は病院の支出として計上されているのかそれとも大学の収支か。

[法人]

建設費及び備品購入費はすべて病院の支出として計上している。

[安田委員長]

大学が交付金約 17 億円占めているということであるが、大学の人件費はどれくらいか。また、この件に関して県と話し合いはしているのか。

[法人]

大学の人件費はH28 年度決算ベースで 32 億 5600 万円である。授業料収入が 20 億円で、残り運営費交付金で補填されるのがあるべき姿であるが、13~18 億円マイナスである。これまでは病院の利益で埋めてきたが、今はなかなか難しいため、運営費交付金のあり方について県と協議したいと考えている。

[竹田委員]

予算のつくりと決算のつくり、例えば人件費は同じ考え方か。例えば国立大では、法人化の時点にいた助教以上の教員の人件費は、予算上すべて運営費交付金の対象である。どの学部でも同様。独法化後の大学の都合での増加分については、自己収入からまかなうが、根本的に国立の考え方と違うということか。元々病院で積算しているのは医員である。それ以外の研修医は教育で積算していた。すなわち交付金の対象である。その他大学病院は一般病院より患者一人当たりの面積が大きいので、法人化当初は光熱水費などの維持費は、前年度実績のうち 4 割を運営費交付金の対象としてスタートし、その後効率化を求めていった。そして病院収入を毎年 2%増加させるように指導し赤字補填の運営費交付金は減らすようにしてきた。

[法人]

予算の段階からセグメントを分けており、予算も決算も臨床の助教以上の教員の70%が病院分、30%分を大学分として計上。それ以外の非常勤の医員、研修医等はすべて病院で計上している。

[安田委員長]

第3期中期目標移行時にも問題になることであると思うので、県とよく相談してほしい。法人化以前は特別会計で借金を作っても見るという形であったが、根本的に変えて、計画を立てられるように。運営費交付金が低いのであれば、知事に説明し、県も厳しいと思うが、検討していただきたい。

②医大新キャンパスについての補足説明

- ・法人より「補足資料2」の説明

[堀委員]

現キャンパスと新キャンパスはどれくらいの規模か。

[法人]

現キャンパスは約10haである。新キャンパスは約10haで、形が不整形ということで県が買い足しを行っている。そこに教育・研究施設を移転し、空いたところに病院の再整備を行う予定。

[堀委員]

将来的に両方合わせた規模は。

[法人]

両方併せて23haの予定。

[安田委員長]

新キャンパスの一つの目玉である地域交流ゾーンとはどれにあたるか。

[法人]

地域交流ゾーンは地域住民に開放するゾーンであり、図書館体育施設、講堂、カフェを地域の方に解放予定。

[今中委員]

長期収支の説明で、E病棟の減価償却が続くとあったが、新キャンパスの大学の負担はどうなっているか。

[法人]

教育・研究施設で収益性のない施設であるので、県の全額負担で整備。移転後現キャンパスの新病棟・立体駐車場に関しては、病院施設であることから、法人も負担することと

なっている。病院施設の負担割合については、従前、県が 25%となっていたが、現キャンパスの整備については、県が 62.5%負担していただくこととなっている。

[竹田委員]

新キャンパスの備品・引っ越し費用等については県費か。

[法人]

詳細に調整を行ったわけではないが、建物と一体的に整備するものに関しては県負担であり、移転を機に新調するものや引っ越し費用については、今後県と協議予定。

③E病棟についての補足説明

- ・法人より「補足資料3」の説明

④（実績連番27）「良き医療人育成のためのプログラム」の評価プロセスについての補足説明

- ・法人より説明

[安田委員長]

この件に関しては項目「教育」分野の評価において議論する。

[議事]

(1) 平成28年度業務の実績に関する評価結果について

- ・事務局より「資料1」、「参考資料1」及び「参考資料2」の説明

〈地域貢献（教育関連）〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（地域貢献の教育関連に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈地域貢献（研究関連）〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（地域貢献の研究関連に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈地域貢献（診療関連）〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。
→意見なし（地域貢献の診療関連に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈教育〉

（実績連番27について）

[今中委員]

教育に関して全体的に高い水準のことをされていると考える。実績連番27に関しても内容はすばらしく、目標の外部評価をできなかったため点数が低く引っ張られているため評価が厳しいものとなっている。全体的な評価「III」は厳しいと思える。自分の評定を「IV」に上げるとともに、項目内全体としても「IV」レベルにあると考える。

中身としては他の大学にないすばらしい取組で、自己評価の基準も高く設定しているので、課題の欄に載せるのはバランスに欠けると考える。

[安田委員長]

一点としては、年度計画が悪いと考える。全く違うレベルのものが一つの計画に書かれているので、どちらが重要かによって各委員によって評価が分かれたと思う。カリキュラムの実施についてはされていると思うが、その後の評価についてはどのようになっているのかが必ずしも業務実績報告書に記載されていないと思う。

[堀委員]

計画で外部評価を実施すると記載し、法人自己評価で「B」をつけているので、説明に納得はできるが、評価する立場としては厳しい点となったと思う。外部評価は簡単ではないことは承知している。委員の多くが「II」をつけたことに関して、少し点数を上げると「IV」になるということか。

[安田委員長]

課題の欄に記載するかしないかをまずご議論願いたい。

[竹田委員]

やるといった以上できなかったものに関しては、課題とすべきであると思う。

[安田委員長]

取組が課題の欄に記載されている点について、評価書においてプログラムの実施については評価しているけれども、評価に関してはできていないと記載している。項目を読んでもいただければ、上はよくやっていて二目が課題とわかるようにと評価を行った。評価委員会としては評価をきっちりとして、次年度に反映していただかないといけないため、課題に記載する必要があると考える。

今中委員は課題の欄に記載すべきでないという意見であるが、委員各位はいかがか。

[任委員]

挙げられた目標に対してどう判断するかという材料になっているので「Ⅱ」をつけた。プログラムの実施については評価しているが、評価という点では目標に到達していないことを考慮した。

[今中委員]

課題として残ることには理解しているが、文章の書き方について、「内容はよくできていたけれども、計画に挙げていた外部評価ができていなかったところが遺憾であった」など、どの点で課題としたのかを明確にすべき。

[安田委員長]

文章の書き方については、全体とりまとめの際に考慮して記載し、委員各位にもご覧いただくこととする。

[今中委員]

「教育」項目全体として大変よくされていると思うので、委員評価平均 3.49 であるが、評価「Ⅳ」にすべきと思うがいかがか。

[任委員]

他の項目と比べて特段悪いというわけでもないので、今中委員と同様評価「Ⅳ」が適切と考える。

[堀委員]

今中委員・任委員のご意見に賛成する。また課題には記載すべきである。

[竹田委員]

堀委員と同様の意見である。

[安田委員長]

「教育」項目の年度評価について、案では「Ⅲ」となっているが、ご議論の結果「Ⅳ」とし、注目される取組・課題の採択については、案のとおりでよろしいか。また課題の文章については、全体とりまとめの際に考慮して記載し、委員各位にもご覧いただくこととする。

→意見なし（教育に関して、項目に関しては全て採択とし、文章的に見直す。また、当該項目は「Ⅳ」とする。）

〈研究〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（研究に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「Ⅳ」とする。）

〈診療〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（診療に関して、項目に関しては全て採択とし、文章的に見直す。また、当該項目は「Ⅳ」とする。）

〈まちづくり〉

[堀委員]

まちづくりの評価が他の項目よりも高い点について、新キャンパスなど長期計画に対するまちづくりとしての前向きなビジョンを評価している。収支面から見ると大変苦しいが、評価の点数を高くすることによって、県にバックアップしてもらいたい意図を、評価委員会が持っていることを示しているからこそであると考えている。また委員各位も同じ考えであると思う。

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（まちづくりに関して、項目に関しては全て採択とし、文章的に見直す。また、当該項目は「Ⅳ」とする。）

〈法人運営〉

[今中委員]

繰越欠損金の解消を実際にやっていけるような状態にどれだけあるのか。

運営はしっかりしているが繰越欠損金の解消にむけての成果が出ていないため、結果

を見て低い評価となっている。運営努力しているが点数が低いと県から補助金が減ることは悪循環であるため、この項目の評価のあり方が難しいと思う。運営の効率化や向上の余地は残されていると思うが、繰越欠損金の解消を現実的に目指すプランにはなっていないと考える。この点が法人だけのせいではないと思うので、考え方をどのように評価に表現すべきかが難しいと思う。

[竹田委員]

冒頭よりの説明によると、今中期目標期間中に改善の見込みは無いと言える。それは運営費交付金の仕組みと予算にミスマッチがあるからである。では、第3期中期目標策定の際に見直す必要があると思うことから、法人運営に余裕がないことを示すために低評価にすべきである。病院で稼ぐシステムには無理があると思う。黒字は将来のための投資に残すべきであるため、差し引きで運営費交付金が減るということはあっても、安定的に地域の医療を守っていけないと思う。

[堀委員]

この項目の全体的な印象としては、収支面に足が引っ張られていることであると思う。しかし、個別に見ると、(実績連番74の)経営分析の自己分析が十分できていないことが足を引っ張っていると思う。最大限の効率的な経営ができているのか、自己努力が最大であるのかを評価委員会として評価すべきであると思う。

[安田委員長]

(実績連番74の)外部委託して行った財務分析では、そこではどのような意見があがったのか、また、大学へどのような分析結果が示されたのか、必ずしも実績報告書には記載されていなかった。

[今中委員]

今後の新キャンパス整備では県がお金を投入するとはいえ、大学側の負担もあり、そのお金も返していくとなると、今以上に黒字を生み出さなければならないということになる。数年前までは、大学病院が診療報酬制度の中でも、非常に恵まれていた体制で黒字を生み出しやすかったが、今後はそれが見込みにくく、ますます財政が厳しくなっていく中で、病院の収入に頼る体制は法人として難しいと思われる。新キャンパス計画も、資金計画が提示されていないので、実現可能なのか、また建てた後も運営できるのかが心配である。そのため、財政の抜本的なあり方を考えないと、病院も法人も経営がかなり厳しくなると思われる。その点で法人運営項目の評価を厳しめにするのは賛成だが、本委員会で議論された趣旨が伝わるような評価結果にするべきである。

提案としては何か一つ書き込みが必要であると思う。

[安田委員長]

どういう形で書き込むかについて、ご意見ございますか。

[竹田委員]

おそらく第 2 期中期計画の中で大きく改善させるのは無理であると思う。しかし、繰越欠損金が膨らみ続けるのは、法人の存続危機につながっていく。たとえば欠損が生じて、短期借入を繰り返した国立大学（旭川医科大学）では、それだけで法人のガバナンスは全否定され、職員の給与カットを行って増収計画を立てて、1 年後に赤字を解消した。国立大学と違って奈良医大は他の大学と比べることができないことから、法人としてがんばっているかどうかを評価することとなると思う。しかしこの点はしっかり次につなげていく必要があるので、場合によっては今後このようなことがないように第 3 期中期目標にむけて、システムから見直すことを県と法人両方の責務として取り組む必要があると評価委員会が感じている、というコメントを表記するべきだと思うがいかがか。

[今中委員]

竹田委員に賛成である。

[安田委員長]

評価の中にどう書き込むかが難しいところであるが

[竹田委員]

法人運営について、おおむね順調であると評価しているだけでは、どんな評価をしているんだと言われかねないと思う。

[安田委員長]

外部委託して資金面に関して何か指摘はあったのか。

[法人]

材料や経費については、努力しているとのこと指摘を頂いている。問題は人件費で、トータル 170 億 180 億の規模があり、法人化後急激に膨らんでいる。法人化後、病院収益で大学を賄っていないといけないという環境のため、かなり拡大路線で売り上げを追求した。そのためには、人員を投入しないと達成できないというところで、積極的に採用を行ったところ。コンサルの分析によると、「若年層の職員の比率が他と比べても多い傾向にあり、今後の昇級幅も大きいので、今以上に中期のスパンで見るとかなりの負担になるので、人件費を見直さないと法人が持たない」とのご指摘を受けたため、今後人件費について、どのように取り組むのかについて、喫緊の課題として検討している。

[堀委員]

若年層はどの職種が多いのか。

[法人]

看護師も多いが、セラピストも多く採用した。

[堀委員]

看護師の場合は、平均年齢が高くなればなるほどコストが高くなる。

人件費は支出面で一番コントロールしにくいもので、収益を出そうと思うと人が必要なもので、なかなか収支に跳ね返ってこないものであるため、経営分析の立場でしっかり解析を行うことを年度計画に盛り込むべきであると思う。将来的な視野で、どれくらいの人の数が一番効率的なのかの分析を行うべきという旨を、評価する立場からは一言盛り込んでもらいたい。

[任委員]

奈良医大は奈良県の医療の最後の砦としての役割、たとえば NICU 等の人手がかかる部門にも投入しているのは、県としての仕事であると思う。人件費の比率の割合が県と決められていると思うが、不採算な部門に手厚くやり続ける現状があると思うので、その辺を踏まえて人件費の抑制を行う必要があると思う。無駄なところの抑制はわかるが、人件費がどうしてもかかる場所として、NICU、ICU、救急、小児等があるが、やらないといけないところである。最後の砦であるということ踏まえると、評価も変わってくると思うが、今回は実績報告書に基づいて評価を行った。委員各位がおっしゃるように厳しい現状であることはわかりつつも、人件費を抑制するとできる医療もできないと思うので、教員とコメディカルの人件費比率について、県と法人とでどのように配分しているのかの問題であると思う。

[今中委員]

診療報酬・健康保険制度は医療を支えるための制度であって、学部教育の面倒までのものには構造的になっていない。よってそれを用いて大学を運営するところはかなり無理がある。もちろんそれだけが理由では無いと思うが、大学の赤字を補填する体制にしているように見える。この体制をやめないと大学医療としてかなり発展しにくいのではないかと、大学自体の研究・教育も難しくなっていくと思う。財源的に厳しいものがあり、解決策も難しいと思うが、そのあたりを解決しないと今後ますます苦しくなっていくと思う。新 A 病棟のお金の負担や、ますます医療が進歩する中でますます人が必要の状況で、診療報酬点数で大学の赤字を補填する仕組みではない仕組みにしていきたいと思う。

[安田委員長]

課題の実績連番 77 について、経営分析をして繰越欠損金の解消を期待するという文章を評価結果と少し違う形になるかもしれないが、文章を考えたいと思う。

[今中委員]

法人内の努力だけでは、なんとも難しいところがあるのではないかと思う。

[安田委員長]

法人としてセクター分析をきっちりと行った上で、大学側単体で、運営できる形がよいと思う。その辺は、大学がどのように分析して、県側とどのように交渉するかにかかってくると思うので、第 3 期中期目標期間に向けて、互いに検討していただきたいと思う。

注目される取組・課題の採択については、案のとおりとしてよろしいか。
→意見なし（法人運営に関して、項目に関しては全て採択とし、文章的に見直す。また、当該項目は「Ⅲ」とする。）

〈全体評価〉

[安田委員長]

採り上げる項目等についてはいかがか。

文面については、各委員へは事務局からメール送付させていただき、ご検討願いたい

→意見なし（全体評価に関して、項目に関しては全て採択とし、冒頭に文章を追記する。）

最終的な評価結果については、委員長に任せていただき、各委員へは事務局からメール送付させていただくのでご確認いただきたい。

また、本委員会の評価結果を法人に通知し、知事に報告する。

(2) 平成 28 年度財務諸表の承認にかかる意見について

- ・事務局より「資料 2」の説明

[安田委員長]

何か意見はないか。

→意見なし（「意見なし」として「参考資料 8」の通り県に提出する。）

(議事終了)

- ・事務局より今後の日程説明

[堀委員]

中期目標達成促進補助金とは。

- ・事務局より補助金概要説明

[安田委員長]

評価をする立場から考えると、年度計画の立て方をもう少し重複のないようにお願いしたい。中期目標の項目の内容はそれぞれ違うと思うので、その内容に適した形の文章にしていきたい。今回でも特に将来像に関して重複しているが、特に地域貢献の項目では、地域交流について何も書かれていなかったため低い評価にした。それぞれの項目に対応した年度計画を立てていただきたい。

また、法人から説明のあった(実績連番27:良き医療人育成プログラムについて)、カリキュラムの実施については100点だが、外部評価の部分が30点、50点だったとなると、平均としては低くなってしまっているので、その辺の計画の立て方もきっちりしていただきたい。

報告書の書き方について、年度計画に沿った書き方にしていきたい。余分な情報はいらないので、「~するために、~をした」のようにしていきたい。評価委員の方々に評価しやすい形で書いていただきたい。

[堀委員]

業務実績報告書の書き方は、年々良くなっていると思うが重複が多い。全体の平均に影響を及ぼすので、次年度工夫をしていただきたい。

[安田委員長]

各項目別に重点をおいた書き方をしていきたい。文章も簡略に。

